

前立腺は男性にしかない臓器で、精液の一部を作っています。解剖学的には膀胱の下に位置し尿道を取り囲んでいます。直腸に隣接しており、肛門から指を入れ直腸の壁越しに触れることが出来ます。この前立腺に発生するがんを前立腺がんといいます。

前立腺がんは近年増加しており、男性のがん罹患数の第1位となっています。一般的には50歳以降に発生し、以降増加します。危険因子として、加齢・食生活の欧米化・前立腺がんの家族歴などがあげられます。

早期の前立腺がんには、特有の症状はありません。局所進行がんでは、排尿障害を中心とした症状が認められます。周囲に浸潤すると血尿や血精液症、転移した場合

にはリンパ節転移による下肢のむくみや骨転移による腰痛などが現れたりします。

前立腺がんの発見に有用な検査は血中PSA（前立腺特異抗原）の測定であり、早期発見には必須の検査です。PSAは前立腺に特異的なたんぱく質であり、PSA値が高くなると前立腺がんの可能性が高くなります。

早期発見のために50歳を過ぎたらPSA検査を受けることが大切です。前立腺がん以外でもPSAが上がることもあるため、異常を指摘されたら泌尿器科で相談してください。

泌尿器科 主任医長 遠藤 剛